21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

PRESS RELEASE　2014.4.1

金沢21世紀美術館　2014年度の事業について

本内容について、貴媒体にて広く掲載・周知いただきますようよろしくお願い申し上げます。
※本内容は2014年4月1日現在の予定です。展覧会名やイベント名、会期などは変更になる場合があります。
　最新の情報は当館ウェブサイトやちらしをご確認ください。

金沢21世紀美術館 ――10周年、刺激的な建築展がみどころです

今年開館10周年を迎える金沢21世紀美術館は、オープン以来のミッションからぶれることなく、これからの10年を見据え新たな表現を伝える場所として活動してまいります。

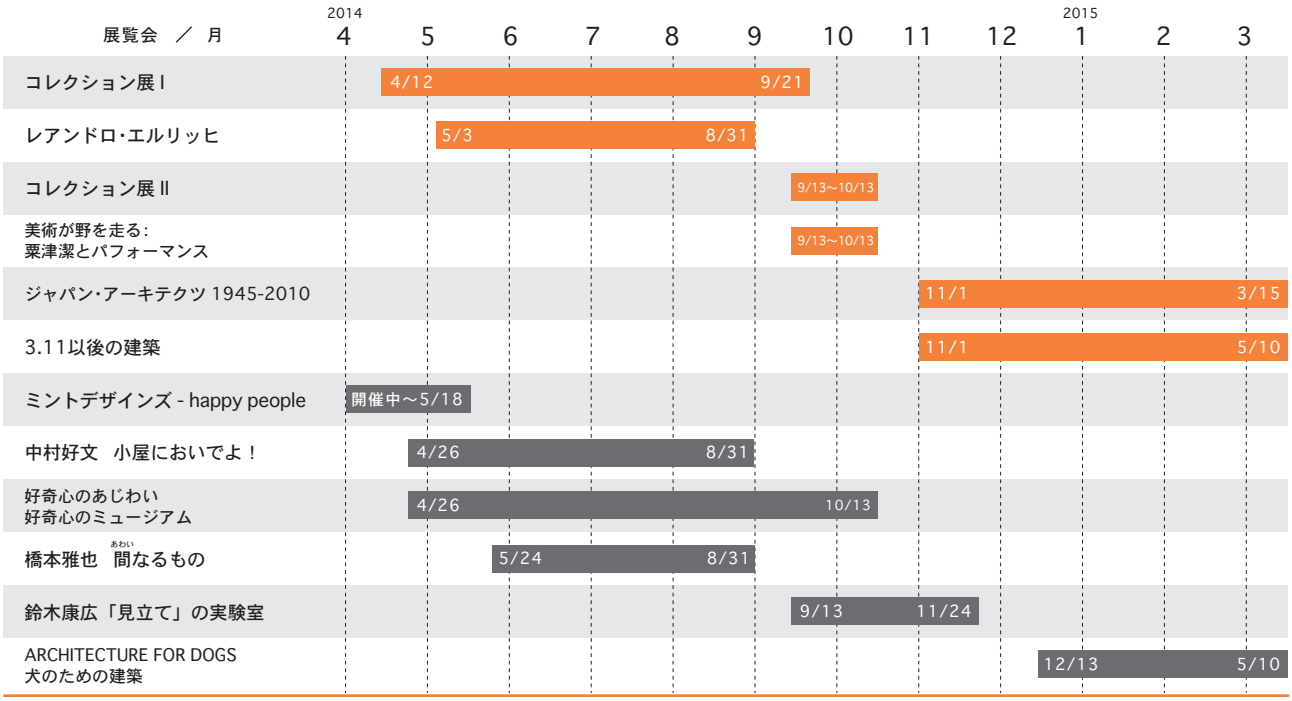
具体的には、今年度から3カ年かけて①建築、②現代美術、③工芸という3つのテーマで大規模な展覧会を開催します。その第一弾が秋に開く二つの建築展です。「ジャパン・アーキテクツ1945-2010」では、パリのポンピドゥー・センターと共同で戦後日本建築の歩みを振り返ります。また「3.11以後の建築」は、大震災を経験した日本の建築家たちの2011年以後の取り組みを紹介する展覧会です。他にも建築に関連した企画が盛りだくさんの一年となるでしょう。

春から夏にかけては、当館で最も人気のある作品《スイミング・プール》の作家レアンドロ・エルリッヒの個展を開催、親しみやすい作品が並びます。そして一年間を通して「食」をテーマにした長期プロジェクトを展開します。「食」と「好奇心」が交じり合い、どのような展開をしていくか楽しみです。さらに交流事業では、充実したパフォーマンスシリーズの他、トークやミュージック、映像など定番シリーズも展開していきます。

来年には新幹線が金沢まで延伸します。それに向けた準備をすすめ、この街を代表するランドマークとして、またコミュニケーションの中心として最新の表現を紹介してまいります。

金沢21世紀美術館 館長　秋元雄史

展覧会スケジュール



※観覧料は展覧会により異なります。(本紙7頁参照)

有料　無料

本資料に関するお問い合わせ

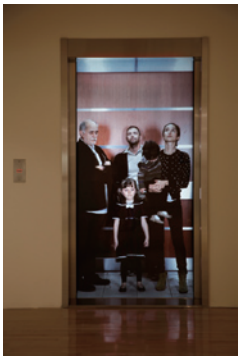
金沢21世紀美術館　広報担当：落合・中山
〒920-8509　金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814　FAX 076-220-2802
http://www.kanazawa21.jp　E-mail: press@kanazawa21.jp

開館10周年記念展覧会

レアンドロ・エルリッヒ

5月3日（土・祝）→ 8月31日（日）

レアンドロ・エルリッヒはシンプルな仕掛けを使い、日常に疑いの眼差しを向けるよう示唆する作品を発表してきました。親しみやすく直裁的なアプローチは、言葉が介在しなくとも楽しめる、美術本来の魅力を最大限に引き出すものです。固定的なものの見方に対する「問い」は多様な視点や思考を可能にします。空間にダイナミックに現れる作品体験を通して、自身の認識のゆらぎをお楽しみください。



左：《スイミング・プール》2004　©Leandro Erlich Studio
右：《Elevator Pitch- Conversaciones de ascensor》2011
courtesy of Galería Ruth Benzacar　© Ignacio Iasparra

ジャパン・アーキテクツ

ジャパン・アーキテクツ 1945-2010

11月1日（土）→ 2015年3月15日（日）

西洋を典拠とするモダニズムと日本的なアイデンティティの間で揺れ動きつつ独自の変遷をとげ、国際的にも大きな注目を集めてきた日本の戦後建築を、約100人の建築家のプロジェクトを通して考察します。本展は日本建築の資料を多数所蔵するパリのポンピドゥー・センターとの共同制作により実現するもので、これまで日本で展示されたことのない資料や貴重なオリジナル資料を含めながら、戦後日本建築の歩みを刺激的に問い直します。

黒川紀章《ヘリックス・シティ》建築パース 1961　ポンピドゥー・センター、パリ国立近代美術館蔵
© Georges Meguerditchian/Centre Pompidou, MNAM-CCI/Dist. RMN-GP
© Kisho Kurokawa architect & associates

ジャパン・アーキテクツ

3.11以後の建築

11月1日（土）→ 2015年5月10日（日）

これからの社会の中で、建築家はどのような役割を求められ、どのような未来を描いてゆくのか。環境やエネルギーの問題、ユーザーや地域との関係といった視点も含め、2011年以降の日本の建築を約30人の建築家の取り組みを通じて紹介します。

ゲスト・キュレーター：五十嵐太郎（建築史家）、山崎亮（コミュニティデザイナー）

アーキエイド：震災復興に向けての住民からのヒアリング風景
（横浜国立大学大学院 Y-GSA小嶋一浩スタジオ、宮城県牡鹿半島鮎川浜）　© ArchiAid

フィロソフィカル・ファッション3

ミントデザインズ - happy people

開催中 → 5月18日（日）

ファッションの新たな価値観を考えるシリーズ第三弾として、「流行」と同義ではないファッションの可能性を提案するファッション・ブランド「ミントデザインズ」を紹介します。本展のために立ち上げたプロジェクト“happy people”は、ミントデザインズのデザインを日常へ浸透させる実験です。東京と金沢で暮らす人々がそれぞれの日常空間のなかでミントデザインズに出会う、その瞬間を展示します。

中村好文 小屋においでよ！

4月26日（土）→ 8月31日（日）

建築家・中村好文は、長年にわたってクライアントの暮らしに寄り添った普段着のように居心地のいい住宅をつくってきました。この展覧会は、中村が子供のころから心奪われ、同時に「住宅の原型」として位置づけてきた「小屋」に関する考察と展示を通じて「住宅とはなにか？」を問い直す企画です。光庭には、エネルギー自給自足を目指すひとり暮らし用の小屋を原寸サイズで展示。併せて長期インスタレーションルームでは、設計途中のスケッチやメイキング映像、中村が影響を受けた古今東西の小屋なども紹介します。

「Hanem Hut」2013　Photo: AMEMIYA Hideya

橋本雅也 間（あわい）なるもの

5月24日（土）→ 8月31日（日）

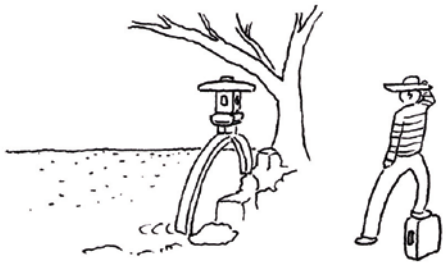
猟師に従い山に入り、仕留めた鹿の骨から、移ろい枯れていく草花をモチーフに精緻な彫刻をつくる橋本雅也。その作品は日本の芸術に広く見られる特徴のひとつでもある「素材と技法への拘り」から生まれます。橋本はそれを創作の問題として批判的に徹底化してみせる一方で、現代人が忘れかけた原初的な生への衝動をも喚起させます。今回は彼の２つの重要なシリーズを紹介します。

《ゲッカビジン / Epiphyllum》2010

鈴木康広「見立て」の実験室

9月13日（土）→ 11月24日（月・祝）

日常生活で「これは何かと似ている」と思うことがあります。このように、あるものを別のものとして表す技法を「見立て」といいます。鈴木康広は船の航跡をファスナーに、剣玉の赤い玉をリンゴに見立てるなど、見慣れたものや現象を独自の視点で捉え、世界の見方を広げる作品を発表しています。本展は美術館や金沢のまちを舞台に、作家と参加者が新鮮なものの見方を集める「実験の場」です。



© SUZUKI Yasuhiro

ARCHITECTURE FOR DOGS　犬のための建築

12月13日（土）→ 2015年5月10日（日）

「犬のための建築」は、犬の尺度で建築を捉えなおし、新たな建築の可能性を模索する、犬と人間の幸福のための真摯な建築プロジェクトです。地球に住むほとんどの人々は犬をよく知っています。そう言う意味で「犬」は大きな可能性を持ったメディアと考えられます。犬を介して、どんな新しい発想が広がるでしょうか。本展では、世界をリードする建築家・デザイナー13組がデザインした「犬のための建築」13作品をご紹介します。

企画・ディレクション：原研哉
参加作家：アトリエ・ワン、伊東豊雄、MVRDV、隈研吾、コンスタンチン・グルチッチ、妹島和世、トラフ建築設計事務所、内藤廣、坂茂、藤本壮介、ライザー＋ウメモト、原デザイン研究所、原研哉

© Hiroshi Yoda

コレクション

コレクション展 Ⅰ・Ⅱ

Ⅰ　透過と反射　4月12日（土）→ 9月21日（日）
Ⅱ　9月13日（土）→ 10月13日（月・祝）

当館では、「1980年以降に制作された新しい価値観を提案する作品」及び「1900年以降の歴史的参照点となる作品」、「金沢ゆかりの作家による新たな創造性に富む作品」という3つの指針に基づき、継続的に作品を収集してきました。開館10周年を記念する本年は、Ⅰでは特に未公開作品や、久々の展示となる作品を中心に、またⅡでは写真表現にフォーカスし、当館の魅力を再発見して頂ける作品の数々をご紹介します。

オラファー・エリアソン《La situazione antispettiva（反視的状況）》2003
© Olafur ELIASSON　金沢21世紀美術館蔵　Photo: © ANZAI

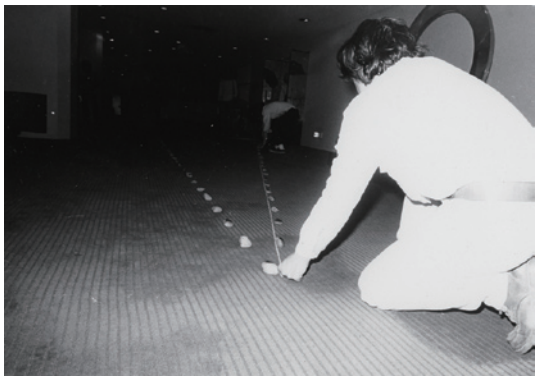
粟津潔、マクリヒロゲル 1

美術が野を走る：粟津潔とパフォーマンス

9月13日（土）→ 10月13日（月・祝）

この御堂に限らず、風景と物の因果律、偶然的な出合い。チャンスオペレーション。そうした部分を人間は見ているのだと思う。
（『造形思考ノート』p112より）

粟津が実践したパフォーマンス等を紹介しながら、時間、空間、場、人について思考し、「見ることは、創ること」を追求した彼の表現を、様々なゲスト・アーティストとともに展観します。



粟津潔 パフォーマンス「Performance & Object」1978　© AWAZU Yaeko

長期プログラム

好奇心のあじわい 好奇心のミュージアム

フードクリエイション＋東京大学総合研究博物館

プログラム期間 ： 4月26日（土）→ 2015年3月

「好奇心をあじわう小部屋」　4月26日（土）→ 10月13日（月・祝）
「好奇心の祝宴」　10月4日（土）→ 10月13日（月・祝）
「ゲリラレストラン」他 パフォーマンス　プログラム期間中随時開催

博物館の原点である「好奇心」をキーワードに展開する体験型の長期プログラム。諏訪綾子が主宰するフードクリエイションが、あらたな「食」の価値を提案し、あじわいの体験へと導きます。10月には、東京大学総合研究博物館と創り出す〈驚異の部屋〉で開館10周年を祝う「祝宴」を催します。

フードクリエイション：ドイツ・ベルリンの元造幣局で行われた「ゲリラレストラン UNDER THE ROOF」2012
Photo: David Nassim　courtesy of foodcreation

ステージ・イベントプログラム

ステージ・イベントプログラムでは、開館から10年の軌跡を振り返りながら次を予感させるようなプログラムをお届けします。
アーティストと場の交配（ベストマッチ）を試みることで化学反応を誘発し、見慣れた景色を変容させ、新種のたねを蒔いていきます。

パフォーマンスシリーズ〈開館10周年記念〉

劇団コープス「ひつじ」

4月28日（月）・29日（火・祝）

突然、広場に羊たちが出没。鳴いたり喰べたり怒ったり…キュートでユニーク、ちょっと怖カワイイ?パフォーマンス！世界中の子どもや大人を虜にしてしまう、一度見たら忘れられない！カナダの「劇団コープス」。ひつじの特性を鋭く捉え、現実とファンタジーが出逢う、楽しく滑稽な世界をお届けします。

Photo: Gary Mulcahey

ニジュウイチビジャック！

～美術館をパフォーマンスで埋め尽くせ～

9月27日（土）・28日（日） / 10月4日（土）・5日（日）

美術館の開放的な空間を最大限に活用し、生身の身体を使った様々な種類のパフォーマンスをオムニバスで繰り広げます。シアターで、野外で、交流ゾーンで。来館者は館内外で出没するパフォーマンスに必ず一度はどこかで遭遇。パフォーマー×観客×空間ーお互いをジャックし合う刺激的な体験。

グループ・アントルス「àut」

10月4日（土）・5日（日）

若手パフォーマンスユニットとして注目株のグループ・アントルス初来日。アントルスとはねん挫のこと。ふとした瞬間に加わるひねりは、身体も、ものごとも、空間をもねじ曲げていきます。歪みの中に生まれた虚像が真実へと変わるパラドックスを孕んだステージ。フランスから到着した、ダンスという名の切なく危険な世界の果て。

Photo: Virginie Meigne

トークシリーズ

フランソワーズ・モレシャンのおしゃれ講座 ～時代を読む

vol.14 「モレシャンのおしゃれ告白」 5月24日（土）
vol.15 「パリジェンヌの1日」 11月29日（土）
vol.16 「エレガンスは学ぶことが可能か？」 2015月2月28日（土）

金沢21世紀美術館国際アドバイザーでもあるモレシャン氏を迎え、アートやファッション、そして現代社会についてモレシャン流の鋭い視点で時代を切り取るトークに、ミニコンサート、上映、パフォーマンスなどの要素も取り入れた人気シリーズ。 2007年より毎年実施し、今期で8期目を迎えます。毎回恒例のドレスコードもリピーターにとっての楽しみの一つとなっています。

フランソワーズ・モレシャンのおしゃれ講座 ～時代を読む vol.12＊

ミュージックシリーズ

ベーゼンドルファーを弾く ― 祝10周年

12月20日（土）・21日（日）

シアター21のハウスピアノとしてオーバーホールされた1962年製ベーゼンドルファーが主役のシリーズ。開館年（2004年）の高橋悠治氏によるピアノ開き以来、数々の名ピアニストたちを国内外からお招きしてきました。10周年にちなんでこれまでに登場した出演者を中心としたマラソンコンサートを開催します。

ベーゼンドルファーを弾く vol.15＊

music@rt Season VIII

年数回

オーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）と企画提携する井上道義＆オーケストラアンサンブル金沢21世紀美術館シリーズ。日頃クラシック音楽に触れる機会の少ない方々にも気軽に音の美しさを体験してもらうことを目的として、“音楽と美術の新しい出会い”をお届けします。交流ゾーンや街中を会場に、無料ながらクオリティの高いオリジナルプログラムを開催。クリスマスに合わせてOEKエンジェルコーラスが天使のような歌声を響かせる毎年恒例のMerry Marubi Christmasも好評です。

music@rt Season VII　Merry Marubi Christmas VII＊

映像シリーズ

映画の極意 vol.15　ザ・MoMA フィルム・ベスト

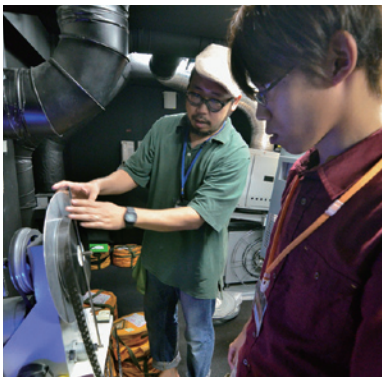
― ニューヨーク近代美術館映画コレクション

11月以降開催予定

1935年の創設から今日まで世界のフィルム・アーカイブ運動、シネマテーク運動をリードし続けるニューヨーク近代美術館（MoMA）映画部門の貴重なコレクションを、厳選されたビンテージ・プリントで紹介します。

映画の極意シリーズは、フィルム映写機を備えた金沢21世紀美術館シアター21を会場に、社会、哲学、文化などテーマごとにセレクトした作品の上映とゲストによるトークを合わせて行なう企画です。

映像シリーズでは他に「こども映画教室」（8月23日）等も開催。


映画の極意 vol.14　映写風景＊

広場事業

Golden まるびぃ Week ’14　　4月26日（土）→ 5月6日（火・祝）

まるびぃ de パーティ　祝！10周年　　10月9日（木）→ 13日（月・祝）

ゴールデンウィークや開館記念日（10月9日）を含む期間中に、多くの市民が参加できるイベントや、様々なジャンルのアーティストが集まりアートの複合と賑わいを創出するArt Complexを開催。全国を巡演する劇団による野外劇場も初夏の風物詩となっています。

＊

＊

＊

＊Photo: IKEDA Hiraku

展覧会観覧料

展覧会名	当日券 一般	当日券 大学生	当日券 小中高生	当日券 65歳以上	前売・団体料金（20名以上） 一般	前売・団体料金（20名以上） 大学生	前売・団体料金（20名以上） 小中高生
レアンドロ・エルリッヒ	1,000円	800円	400円	800円	800円	600円	300円
ジャパン・アーキテクツ1945-2010	1,000円	800円	400円	800円	800円	600円	300円
3.11以後の建築	1,000円	800円	400円	800円	800円	600円	300円
ジャパン・アーキテクツ1945-2010 3.11以後の建築　共通観覧料	1,700円	1,400円	700円	1,400円	1,400円	1,100円	600円
コレクション展 I	360円	280円	無料	280円	※1 280円	※1 220円	無料
コレクション展 II 美術が野を走る：粟津潔とパフォーマンス	360円	280円	無料	280円	※1 280円	※1 220円	無料

※「コレクション展 I・II」と「美術が野を走る：粟津潔とパフォーマンス」は同時期に開催中の特別展チケットで観覧することができます。
※1 コレクション展の団体料金です。前売り券販売はありません。

美術奨励の日

市民がより美術に親しみ、豊かな心を育むよう、金沢21世紀美術館では、「美術奨励の日」を設けております。
この日は、金沢市民の方が金沢21世紀美術館主催の「コレクション展」を無料で観覧できる日です。
総合案内で金沢市民であることを証明できるものをご提示頂くと、無料の観覧券を受け取れます。

2014年度の「美術奨励の日」は、4/12、5/10、6/14、7/12、8/9、9/13、10/11です。

本資料に関するお問い合わせ

金沢21世紀美術館

広報担当：落合、中山
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1　TEL 076-220-2814　FAX 076-220-2802
http://www.kanazawa21.jp　E-mail: press@kanazawa21.jp

※本内容について、貴媒体にて広く掲載・周知いただきますようよろしくお願い申し上げます。
※本内容は2014年4月1日現在の予定です。展覧会名やイベント名、会期などは変更になる場合があります。
　最新の情報は当館ウェブサイトやちらしをご確認ください。